

## ベラルーシ公開情報取りまとめ

(7月14日～7月20日)

2019年7月22日

在ベラルーシ大使館

### 【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、第6回ベラルーシ・ロシア地方フォーラムに出席(7/18)

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と会談(7/18)

●世銀、ベラルーシ経済効率性向上に向けたロードマップ作成、9月に完了予定(7/19)

#### 大統領動静

●第6回ベラルーシ・ロシア地方フォーラムに出席(7/18)

ルカシェンコ大統領は、サンクトペテルブルクで開催された同フォーラムのプレナリーセッションで演説を行った。演説の要旨は以下の通り。

・(直前にプーチン大統領が演説したことを受け)私の演説内容が、プーチン露大統領が話した内容の繰り返しになったとしてもそれは盗作ではなく、同じ思考を持っているということである。

・文化統合とベラルーシ人の貢献について。サンクトペテルブルクは、ロシアにおける文化的な首都であり、文化交流の中心地である。文化・人文に関連する両国民の統一空間に関するテーマを協議するのに絶好の場所である。文化発展においてベラルーシからロシアへの移住者の貢献は大きい。

・学問分野の相互協力について。1300もの学問に関する二国間の合意書が署名されており、二国間学問分野相互協力は強化されている。統一学問空間の形成において、モギリョフにあるベラルーシ・ロシア大学が果たす役割は大きい。特に宇宙開発、情報工学、農業、工業分野における学問分野相互協力は一層集約的なものとなる。

・歴史的絆、共通の記憶について。ロシアとベラルーシは共に多くの試練を乗り越え、堪え忍んできた。欧州において我々に対する批判があると、私は「あなた方は過去の戦争に対する償いをしきれていない。我々は70年で未だ回復できていない。独裁や人権問題等について我々に対する批判をよく聞くが、もう少し気をつけるべきだ」と伝えている。今年はレニングラード(当館注:サンクトペテルブルクの旧名)とミンスクの解放75周年、来年は戦勝75周年を迎える。これら

は、ベラルーシ国民とロシア国民の統一、連合国家のイデオロギイ的基礎の強化において非常に重要である。

・連合国家建設における若者の参画について。統合プロジェクトの成否は、若者の参画度合いに掛かっている。毎年開催される二国間学生情報工学競技大会「オリンピアダ」が模範例である。今年はロシア・ベラルーシにより開発されるベラルーシ原発のあるオストロヴェツで開催され250名のベラルーシ・ロシアの学生が参加した。二国間の情報工学統一空間組成に向け活用されるべきである。

・共同スポーツ大会について。2003年以降、毎年子供達による連合国家運動会を開催している。また2018年にはロシアでサッカーワールドカップが開催、2019年にはベラルーシで欧州競技大会が開催された。連合国家の予算を使用した連合国家競技大会を実施の検討をしたい。これは旅行業界の発展に大きな刺激を与える。

・統合問題について。今年12月に連合国家創設条約は20周年を迎える。しかし、これまでロシア国民、ベラルーシ国民の権利平等化に向け行われたことは多くはない。ベラルーシにはロシア系企業が2500社存在し、在外ベラルーシ企業のうち約半数はロシアに存在する。両国地方間の協力も重要であり、経済分野での前向きな結果を保持するだけでなく、増加していくことが課題となる。各国民の利益を考えつつ、両国の社会経済発展にむけ力を合わせることで統合問題の本質である。

(7/18 大統領府公式ホームページ)

●プーチン露大統領と会談(7/18)

ルカシェンコ大統領は連合国家創設条約が20周年

を迎える2019年12月までに両国間の問題解決を目指すことを提案した。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・今年12月に連合国家創設条約が20周年を迎える。いかなる問題もこの期限を超えてはならない。現在二国間にある問題を解決しない限り、そして共同活動に関わる戦略を定義するプログラム(当館注:連合国家創設に関わる覚書)の署名をしない限り、20周年を迎えても発言できなくなってしまう。
- ・問題を先延ばしにし話す時期は既に過ぎており、今は決定を下す時期である。ジャーナリストや専門家だけではなく、一般の人々も我々の決定を待っている。
- ・これまで複数回に亘り、ソチ、モスクワ等、各所で会談を行ってきた。頻繁に会うが、何も決めていないと批判する方々もいる。しかし、我々は具体的な活動を明確にし、政府作業部会を創設し、大統領としての責務を果たしている。戦略的な書類を準備しているが、依然多くの問題が残っている。とはいえ、80~90%は両者間で合意が得られている。
- ・またベラルーシ側が具体的な問題解決を要請していると批判を浴びることは避けたい。しかし具体的な問題解決無しでは、戦略について話すことはできない。従って、連合国家創設条約が20周年を迎える2019年12月8日までの問題解決を目指すという両国政府の提案を支持する。時間は十分にある。

プーチン露大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・全てが重要で、興味深く、将来性があり、意義のあるものである。
- ・既に連合国家の将来的な発展に向けた政府作業部会が作業を進めており、今日、現状報告がなされる予定。
- ・ルカシェンコ大統領とともに、連合国家創設条約の枠組みでできること、できていないこと、そしてその理由について分析する。そして、両国にとって受容可能な統合計画の作成を進める。
- ・ロシアとベラルーシは一番の戦略パートナーであり、安全保障、軍事、防衛、経済等、全方向的に働いて

いる。二国間貿易は拡大しており、ベラルーシにおける最大の投資家はロシアである。しかし、このような巨大な共同作業において頻発する問題が生じている。今回の会談で、共同作業がさらに前進することを期待している。

(7/18 大統領公式ホームページ)

#### ●プーチン露大統領と露バラーム島へ訪問(7/17)

(7/17 大統領公式ホームページ)

#### ●ゲルマン・グレフ露ズベルバンク会長と会談(7/16)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシにおけるズベルバンクの活動を高く評価している。
- ・ロシアやベラルーシで数々の問題が発生しているにもかかわらず、ベラルーシでの活動を継続してくれて大変ありがたい。
- ・かつてベラルーシに訪問された際に合意したことを、きちんと履行している。約束をきちんと履行する人は残念ながら近年少なくなってきており、非常に評価しており、貴方との交流はとても喜ばしいことである。
- ・ミンスクにおける第8回ズベルバンク競技大会(当館注:ズベルバンク従業員による陸上競技大会)の開催を歓迎する。

グレフ会長の発言要旨は以下の通り。

- ・本訪問の歓待およびズベルバンク競技大会への支援に対する謝意。
- ・全てが時計のように正確であり、素晴らしいインフラが整っている。3000人を超える従業員が訪れ、ここが非常に快適であると感じている。

(7/16 大統領公式ホームページ)

#### ●コジェミャコ露沿海地方知事と会談(7/16)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシが沿海地方の発展に積極的に参画していく用意がある。
- ・コジェミャコ知事が指導している間、ロシアの地方とベラルーシの関係は発展し、生産的な関係が構築さ

れた。

- ・建設的な相互協力が継続していくことを期待する。
- ・沿海地方への農業機械・工業機械・乗客輸送手段を納入する用意が有り、いかなる契約にも参画する用意がある。合併企業の設立、農業コンプレックスの発展含め、いかなる支援も提供する。
- ・我々は知事にとって真の友人、パートナーである。

コジェミャコ知事の発言要旨は以下の通り。

- ・露極東発展に関わる合同事業に対するルカシエンコ大統領の高評価に対する謝意。
- ・有益なプロジェクトの実現により、力強い信頼・相互尊敬の基礎を作った。これは沿海地方とベラルーシの貿易、社会、経済関係の発展の出発点となる。
- ・沿海地方住民の多くがベラルーシにルーツを持っており、両国民の利益になるよう継続していく。

(7/16 大統領府公式ホームページ)

## 内政

### ●ミンスク・他地域との給与格差が拡大

イプム研究センターの発表によると2014年時点での地方給与水準は、ミンスク市内給与の69～77%であった一方、2018年時点の同水準は60～72%とであった。イプムは、給与格差拡大の背景として、地方都市からミンスクへの優秀な人材の流出があるとしている。

(7/15 ベラパン通信)

## 経済

### 【国内経済】

#### ●ベラルーシ、石油精製業者輸出量、約20%減少

2019年1月～5月のベラルーシ石油精製品の輸出高は22.8億ドル。昨年同時期対比20%(約5.6億ドル)減少。同減少の背景は、ロシアからの低品質石油問題である。

(7/18 ベラパン通信)

#### ●2019年1月～5月、コンピューターサービス輸出高、昨年対比29%増加

同高734.7百万 USD と昨年対比29.3%。輸出先は CIS 圏外が90%以上を占めている。なお、輸出高の85%がハイテクパーク入居企業となっている。

(7/18 ベラパン通信)

#### ●2019年1月～6月国内総生産、昨年同時期対比0.9%増

ベラルーシ国内総生産成長率公式予測は4%。クルトイ経済相は、大規模プロジェクトの投資拡大、中小ビジネスの発展により同成長率予測は到達できる見込みとしている。一方、Fitch グループは、同率は2.5%まで落ち込む可能性がある」と表明している。また国際通貨基金は2019年:1.8%、2020年:2.2%、2021年:3.1%と下方修正。さらに、世銀は、ロシアによる石油税操作の悪影響が出ることを指摘した上で、2019年:2.2%、2020年:2.4%、2021:2.1%と下方修正している。

(7/17 ベラパン通信)

#### ●ミンスク市で需要の高い職業

2019年7月1日時点における職種別求人数は以下の通り。

エンジニア:833

看護師:762

料理人:598

小売販売員:586

医師:580

(7/15 ベラパン通信)

### 【対外経済】

#### ●世銀、ベラルーシ経済効率性向上に向けたロードマップ作成、9月に完了予定

世銀ベラルーシ・モルドバ・ウクライナ地域局長サトゥ・カフコネンがトゥルチン第一副首相との会談で発表。

(7/19 ベラパン通信)

●トウルチン第一副首相、ベラルーシの WTO 加盟に関し発言(7/14)

同副首相はテレビ局「全国テレビ」とのインタビューで以下発言。

- ・ベラルーシ WTO 加盟に向け一番難しいのは米国・EU との交渉である。
- ・米国・EU には感謝している。彼らは細かい事項を慎重に検討しており、我々にとってプラスである。
- ・ベラルーシの WTO 加盟手続きについて、短期間で成果を見せており、進展は明らかである。
- ・我々は自身のために WTO 加盟時期の目標設定を行った。具体的には第12回 WTO 閣僚会議(於:カザフスタンのヌルスルタン市)が開催される2020年6月である。

(7/14 ベラパン通信)

(了)